石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 遅刻・欠席を減らす、服装容儀を整えるなど基本的生活習慣の一層の確立を目指す。	① 全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻の減少に努める。	生徒指導 学年 各教科	これまで減少傾向にあった遅刻者数が大きく増加した。また、授業の始まりにも遅れがちな生徒が見受けられる。	【努力指標】 登校時及び授業の遅刻に対して適切な指導に努める。	遅刻指導を A　積極的に行った B　必要に応じて行った C　時々行った D　ほとんど行わなかった	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に調査
				【成果指標】 遅刻者数が前年度より減少した。	遅刻者数が前年度比、 A　８０%未満であった B　８０%以上～９０%未満であった C　９０%以上～１００%未満であった D　１００%以上であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	毎月調査
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	生徒指導 全職員	服装・頭髪の乱れが目につくようになり、それとともに問題行動も増加傾向にある。	【努力指標】 様々な機会を捉え、服装・頭髪に関する注意を与え、規律・マナーの向上に努める。	頭髪・服装容儀指導を A　積極的に行った B　必要に応じて行った C　時々行った D　ほとんど行わなかった	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に調査
	③ 職員間の連携をより密にし、生徒理解を深める。	生徒指導 保健環境 学年 全職員	生徒理解のため職員間の情報共有化を図る必要がある。	【努力指標】 学年、各課、教科等において、全職員が共通理解を図るとともに、連携した支援・指導を行う。	職員間で連携した支援・指導ができるよう A　常に関係職員に連絡した B　時々連絡した C　あまり連絡したかった D　ほとんど連絡しなかった	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に調査
2 少人数授業の特徴を最大限に活かした授業改善に努め、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	① 研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	教務 各教科	研究授業等でさらなる授業改善が必要である。	【努力指標】 授業評価や研究・公開授業・授業参観などを実施し、特に少人数授業の改善に努める。	少人数授業の改善に A　積極的に取り組んだ B　ある程度満足できる取り組みができた C　積極的な取り組みはできなかった D　ほとんど取り組めなかった	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に調査
	② わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	教務 各教科	生徒の興味・関心を引き出すためにさらなる改善が必要である。	【満足度指標】（生徒） 興味を持って、授業に参加することができた。	私は A　多くの科目で興味が持てた B　約半数の科目で興味が持てた C　約３分の１の科目で興味が持てた D　わずかの科目しか興味が持てなかった	A＋Bの合計が60%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に生徒アンケート
	③ 授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	教務 進路指導 学年 各教科	基礎学力と家庭学習などの学習習慣の定着が必要である。	【成果指標】（生徒） 自主的な学習を継続的に取り組むことができた。	授業以外の平均学習が、１時間以上の生徒が、 A　７０%以上である B　５０%以上～７０%未満である C　２０%以上～５０%未満である D　２０%未満である	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	定期的に調査
	④ 個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	各教科 学年 進路指導	多様な進路実現に向け、一人ひとりに応じた学力向上の方策が必要である。	【努力指標】 放課後などの時間で積極的に補習や個人指導を行い、学力の向上を図った。	授業外で補習や個人指導を A　積極的に行っている B　必要に応じて行っている C　時々行っている D　ほとんど行っていない	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	９月、年度末に調査
				【成果指標】 各種資格試験の受験者数が増加した。	受験者数（延べ）が、 A　１０００人以上であった B　８５０人以上～１０００人未満であった C　７５０人以上～８５０人未満であった D　７５０人未満であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	年度末に集計

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、系統立てたキャリア教育を推進する。	① 各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	進路指導 学年 企画	多様な進路希望があり、それに対応するための指導体制の充実が求められる。	【努力指標】 進路実現に向けて適切な支援を行い、あらゆる機会を通じてキャリア教育の推進に努める。	進路実現に向けた適切な支援・助言を A　積極的に行い、キャリア教育を推進した B　必要に応じて行った C　時々行った D　ほとんど行わなかった	A＋Bの合計が80%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【満足度指標】（生徒） 進路行事・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」を通じて、進路について意識し考えることができた。	進路行事・「産社」・「総合」の学習が A　進路を考える上で、大いに役立った B　ある程度役立ったと感じる C　あまり役立たなかった D　まったく役立たなかった	A＋Bの合計が70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に生徒アンケート
	② 保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	進路指導 学年 企画	保護者への進路に関する情報提供がまだ十分とはいえない。	【満足度指標】（保護者） 進路について、必要な情報が提供されていた。	提供された情報に対して A　満足できた B　ある程度満足できた C　あまり満足できなかった D　満足できなかった	A＋Bの合計が70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
4 活気のある北陵高校を目指すために、部活動の積極的な加入・活動を推進する。	① 部活動の活性化を目指し支援･運営する。	特活 全職員	目標を持てないで活動に参加する生徒が多く、充実感が得られないまま部活動を終える生徒が多い。	【努力指標】 部員に目標を持たせ、充実した活動になるよう支援する。	部活動の指導に A　積極的に参加し、充分な支援ができた B　できる限り参加し、概ね充分な支援ができた C　あまり参加せず、充分な支援をしていない D　ほとんど参加せず、支援もしていない	A＋Bの合計が70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【満足度指標】（生徒） 目標を持って活動することができた。	目標を持って部活動することが A　できた B　ある程度できた C　あまりできなかった D　できなかった	A＋Bの合計が70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に生徒アンケート
	② 地域行事等に参加し、地域との連携を密にする。	特活 全職員	地域社会の一員として、社会に貢献する精神を育むことが必要である。	【努力指標】 公共心や自己啓発をめざすことができるようにその必要性を説き、情報を発信する。	公共心や自己啓発に対する必要性や情報を A　積極的に発信している B　ある程度発信している C　あまり発信していない D　まったく発信していない	A＋Bの合計が70%未満の場合次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に調査
				【成果指標】（生徒） 清掃活動や地域行事、ボランティア等に参加した。	一度は参加した生徒が A　１００人以上であった B　７５人以上～１００人未満であった C　５０人以上～７５人未満であった D　５０人未満であった	C、Dの場合、次年度の取り組みを再検討	9月、年度末に集計